

独立行政法人国立病院機構 信州上田医療センター



発行：令和2年4月 発行人：院長 藤森 実

信州上田医療センターの理念

私たちは目指します

- 1)互いに信頼し尊重しあえる関係
- 2)安全で質の高い医療
- 3)情報を共有して納得のできる医療
- 4)地域と連携して安心できる医療
- 5)医療の将来を見すえた健全な経営

【患者さんの権利】

- 1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重される権利があります。
- 2. 良質かつ適切な医療を平等に受ける権利があります。
- 3. 病気・検査・治療・見直しなどについて、納得できるまで十分な説明を受ける権利があります。また、自分の診療記録の開示を求める権利があります。
- 4. 十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方法などを自らの意思で選択する権利があります。そのために担当医以外の医師を考え（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 5. 医療の過程で医療者が知り得た個人情報を守られ、入院中も可能な限り私的な生活が乱されない権利があります。

施設認定

- 地域災害拠点病院(1997.1)
- エイズ治療拠点病院(1997.7)
- 地域周産期医療センター(2000.9)
- 地域医療支援病院(2002.11)
- 災害派遣医療チーム(2008.9)
- 第2種感染症指定医療機関(2009.11)
- 地域医療教育センター(2011.4)
- 臨床研修病院 基幹型(2012.4)
- 地域がん診療病院(2016.4)
- 地域医療人材拠点病院(2019.4)

院長就任にあたって



信州上田医療センター院長
藤森 実

このたび4月1日より、院長に就任いたしました。何とぞよろしくお願い申し上げます。

2016年12月に、茨城県から当院副院長に就任して3年4ヶ月、地域の皆様と一緒に歩んで参りましたが、このたび院長という重責をいただき身が引き締まる思いです。

副院長就任時にも自己紹介しましたが、改めまして、私は、昭和33年に南安曇郡豊科町（現安曇野市）で生まれました。豊科中学校から松本深志高校卒業後、岩手医大に入りました。卒業後は故郷に帰ることを決め、信州大学第2外科学教室に入局しました。信州大第2外科は元々甲状腺外科が中心の教室でしたが、私が入局した頃は、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科も行っていました。そのなかで当時は初診の診断から全身治療、再発後の治療まで全て外科医がやらなければ

ならない乳癌に興味を持ち乳腺内分泌外科を専門としました。信州大第2外科に25年間在籍したのち茨城県に異動し、2008年4月より東京医科大学茨城医療センターに新しく発足した乳腺科の教授をつとめました。その後、2016年に当時の信州大学医学部長にお声がけいただき12月より信州上田医療センターに着任致しました。上田に住むのは初めてでしたが、晴天率の高いこの地域が大変気に入って、1年後には借家を出て自宅を購入しました。微力ではありますが、上田地域のために末永く貢献したいと思っております。

当院は私が着任した時は、県内の同規模総合病院と比べて明らかに機能が劣っており、夜間救急患者の多くや乳癌などのがん患者さんを佐久など近隣の医療圏にお願いしなければなりませんでしたが、しかし、この3年あまりの間に、当院も少しずつ充実し、乳腺内分泌外科の開設や、消化器外科、整形外科などの医師が増えたことにより、私が来た頃は不可能であった夜間緊急手術や他院では困難な高度な手術がたくさんできるようになり、地域の皆様の要望に応えられるようになってきました。救急車も年間3500台以上受け入れ、上小地域の2次輪番病院の後方病院として1年365日24時間対応しております。また、当院は第二種感染症指定医療機関に指定されていて、この度の新型コロナウイルスという難問にも立ち向かっております。

さらに皆様のご支援により、本年9月には東信地区で初の緩和ケア病棟が稼働開始することが可能となりました。誠に有り難うございます。

しかしながら、昨年2月18日、厚労省から発表された全国2次医療圏別の医師偏在指標（従来の人口10万当たりの医師数に代わり、より詳細な診療需要まで加味した計算ではじき出したもの）では、人口や診療需要に対して適正な医師数を確保できていない全国下位3分の1の「医師少数区域」に上小地域が位置付けられました。当院も最も医師数が少なかった2008年に比べれば医師数が増えたとはいえ、県内の同規模基幹病院に比べれば半数しか医師がいません。医師ひとりひとりの負担は限界に近くなっています。大学病院はじめ各所をお願いして医師の倍増に尽力していきたいと思っております。

上小地域には約20万人の県民が住んでいらっしゃいますが、様々な疾病の診断・治療がこの医療圏内で完結できるよう当院は最後の砦となるべき使命をいただいていると理解しております。住民の皆様には質の高い診断・治療さらに生涯にわたるサポートが提供できるよう誠心誠意つとめてまいりたいと存じます。

副院長就任にあたって



副院長
横山 隆秀

このたび4月1日より副院長に就任いたしました。よろしくお申し上げます。

私は、2018年の4月に信州大学から当院へ外科系診療部長として赴任し、早くも2年が経過しております。

私の専門は消化器外科ですが、赴任前の当院は消化器外科医が少なく、夜間や休日の緊急手術だけでなく、予定手術においても十分な内容の診療を皆様に提供できておりませんでした。2018年度から消化器外科医が3名から5名と増員し、診療体制の拡充を行なってもらいました。

ひとつめは、より多くの病気に対して手術を提供することでした。私は信州大学勤務時代に、①肝臓、胆道（胆管、胆のう）、膵臓などの手術、②鼠径ヘルニアや腹壁ヘルニアの手術、③腹腔鏡手術などを専門として診療を行っており、これらの手術を当院でも提供可能となりました。それまで消化器外科の年間手術件数は240件程度でしたが、現在600件以上となっております。ふたつめは夜間・休日の緊急手術への対応です。増員されたため当番制を敷くことが可能となり、緊急手術も年間80件から200件と増加しております。みつつめは、腹腔鏡手術の提供です。良性疾患だけでなく悪性のがん（高度進行がんは

除く）などに対して、ほぼ全ての臓器に対して行えるようになっております。年間30～40件ほどであった腹腔鏡手術も、年間250件と増加しております。

このように、当院における消化器外科診療の充実を目指して日々診療を行ってまいりましたが、これからは当院全体に目を向け、さらなる診療の充実を進めていく必要があると考えております。受診される一人ひとりが希望される、あらゆる治療に対応できる体制作りを進め、上田小県地区20万人が安心して受診し、当地域内で治療が完結できるようにしていきたいと思っております。

特命副院長就任の挨拶



特命副院長
吉村 康夫

2018年7月に信州大学医学部附属病院より当院に赴任して約2年が経ち、この度特命副院長を拝命することとなりました。当院赴任後は専門である整形外科診療に加えて、地域医療教育センター長として主に当院の初期臨床研修プログラム作成や実際の研修計画の遂行、研修環境整備などの仕事を行ってきました。その中で診療面では地域の急性期中核病院として救急患者受け入れに努力してきたつもりではありますが、

受け入れ体制や入退院のバランス管理など、多くの患者さんを効率よく受け入れていくには改善が必要な問題点が多くあることを実感してきました。また一方で当院の地域での役割は高度な医療の提供であると自負し、日々変化する医療事情に対して地域の患者さんに信頼されるような医療レベルの維持と向上を常に追求することが重要であると考えてきました。各診療科での取り組みは勿論のことですが、今後は診療及び救急体制の整備をはじめとして、がん診療、今年度開設予定の緩和ケア病棟、周産期医療など病院全体としての取り組みにも院長および病院幹部とともに先頭に立って尽力したいと思っております。そしてさらなる病院の発展には医師の確保が重要な課題です。引き続き教育センター長としても、当院で研修していただける研修医の確保と教育に尽力し将来上田地域で活躍してもらえぬ医師育成に力を尽くしていきたいと考えています。